

# くさか景子の ちょっ よろしいですか！

と

毎月発行 県政情報紙 2010年3月 Vol 34



全国初

## 神奈川県受動喫煙防止条例 4月1日いよいよスタート！ スモークフリー 吸わない人には吸わせない

昨年県議会でも大議論で可決した受動喫煙防止条例が、この4月からスタートします。不特定または多数の人が出入りする施設(公共的施設)での、受動喫煙を防止するためのルールを定めた条例です。学校、病院等では禁煙、飲食店やホテルなどでは、禁煙や分煙を選択すること、破った場合は罰則も適用されます。スモークフリーとは、煙から解放されて自由になるという意味です。

折りしも、厚生労働省でも公共の場での全面禁煙の通知を出し受動喫煙の防止に乗り出しています。しかし、実際、喫煙席と禁煙席の仕切りが不十分な実態もあり、改修費用の負担も含めて、対策は未だ不十分です。県の条例は、国の対応の後押しとなり対策の実効性を高めていく役割も求められます。



キャラクタータバコちゃん

先日視察に行ったアメリカのロサンゼルスでは、どの建物内もすべて禁煙が徹底しており、喫煙は戸外でしかできませんでした。また、他国でも建物内禁煙が進んできてはいますが、ウィーンのカフェでは喫煙室の設置に向けて改修費用がかさみ、経営が圧迫されているようです。県でも、条例制定で、やはり改修費用を県で負担してほしいとの声も上がっているなど課題が残っています。



2月6日に藤沢湘南台で行われた、スモークフリーフォーラムには、私が条例研究をお手伝いした、慶応大学湘南キャンパスの学生がパネラーで出演し、キャンペーンを盛り上げました。学生たちは、授業の一環で受動喫煙防止条例を取り上げ、各関係者へのヒアリングや飲食店へのアンケートを実施するなど、知事へ2つの提案書を提出しました。ひとつは、条例施行前に飲食店に禁煙のトライアルをして協力店を募集すること、二つめは、改修費用の助成に基金を設立できないかというものでした。結果、トライアル店協力案が採用され、啓発に一役かいました。私のアドバイスで学生たちは、とても実効性のある研究を成し遂げたといえるでしょう。若いひとたちの案で、県政に反映できた成功例です。



## 失業者へのセーフティネット

### 貧困・困窮者に対する「ワンストップサービス・デイ」の県の取り組み

政府民主党は、一昨年の日比谷公園での年越し派遣村を再現させないことを命題に、雇用対策を行っています。その代わりに、今年は、東京都の国立オリンピック総合センターにおける「公設派遣村」に860人が集まり、宿泊、食事、生活相談の「三位一体型」支援で生活再建への道しるべをつくりました。

神奈川県では、昨年11月30日と12月21日の2回、雇用・住まい・生活相談が一度にできる「ワンストップサービスデイ」をハローワークで行いました。11月は172人、12月は238人と相談数も増加し、主な相談内容は、生活保護申請、つなぎ資金の貸付などの生活相談でした。特に12月は年末までに交付が間に合うことになっていたため、年越しには効果が上がりました。

しかし、未だ根本的に職を見つけるには高い壁があり、一日のワンストップサービスデイだけではなく、恒常的に早急な生活保護や貸付などの支援が必要です。県は、2月の補正予算や22年度の新年度予算にも緊急雇用対策費を計上していますが、財政難もあり、失業者支援の仕組みは充分とはいかないのが現状です。



## くさか景子のほっとコラム

### 県庁、県警 不正経理問題！！

県税務課で、平成11年度から20年度までに不正経理が判明、一部を私的流用したとして、職員3人が懲戒免職となった。その後、県警でも約10億7,800万円の不正が判明、合計27億4,000万円(2月26日現在)となった。職員117人と170業者が関与していた。もともと業者への架空発注で、代金だけを支払い、金を業者にプールさせる「預け金」が多い。県警では、個人着服の事実は不明だが、図書券やビール券、打ち上げ費用、備品購入に充てられていた。

県議会の追及に、知事、警察本部長は再発防止に努めると頭を下げる。すぐ支出できるお金だから預け金を利用したとか、単年度予算制度の弊害とはいえ、「預け金」制度は良くない。チェック体制の甘さ、「税金である」という認識の低さなど問題は多いと思う。

今後も調査は続けられる。

\*くさか景子のひとりごと\* 活動報告の ブログ 更新中です！ぜひご覧ください！  
<http://www3.ocn.ne.jp/~children/>